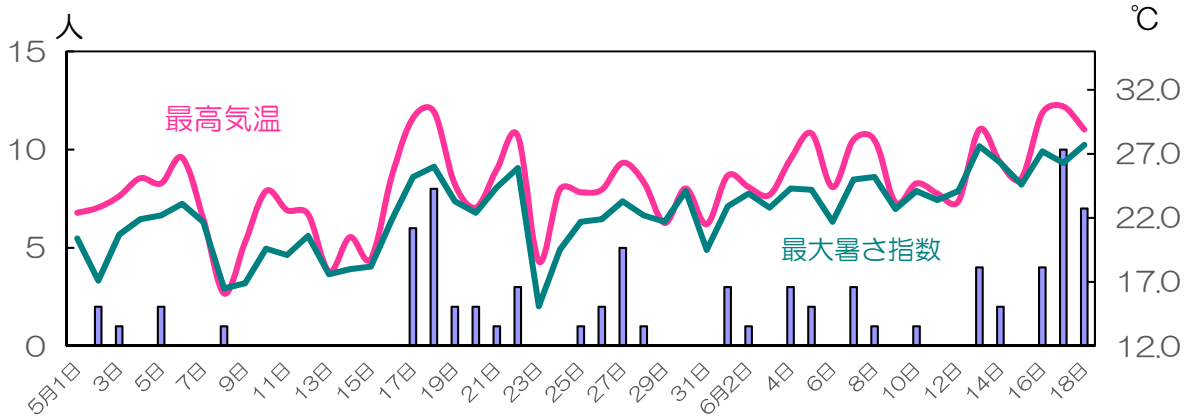


# 熱中症情報

## ＜搬送数＞

令和5年5月1日～6月18日までの搬送数（消防局データを使用）は、計78人（5月37人、6月41人）でした。6月17日は、梅雨の晴れ間で、真夏日（最高気温30.7℃）となり、搬送数も10人/日と多かったです。

熱中症は、梅雨入り前の5月頃から発生し、暑い日が続いてくると多発する傾向があります。気温が高いなどの環境下で、体温調節の機能がうまく働かず、体内に熱がこもってしまうことで起こります。身体がまだ暑さに慣れていない梅雨の時期は、蒸し暑い日、風が弱い日、日差しが強い日等に増加する傾向がありますので、こまめに水分を取り、室温を適切に調節し、暑さから身を守りましょう。



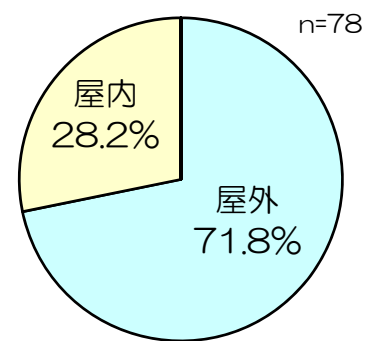
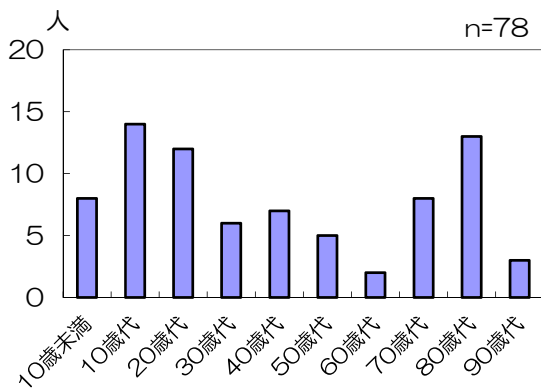
**暑さ指数とは？**人間の熱バランスに影響の大きい①温度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温の3つを取り入れた温度の指標 詳細は「環境省熱中症予防情報サイト [暑さ指数\(WBGT\)とは？](#)」をご覧ください。

## ＜年齢別＞

10歳代が14人（17.9%）で最も多く、次が80歳代で13人（16.7%）でした。

## ＜発生場所＞

屋外71.8%、屋内28.2%で、屋外での発生が多くなっています。



## ＜重症度＞

軽症74.4%、中等症23.1%、重症2.6%でした。高齢者（65歳以上）の中等症以上の割合が38.5%と、高くなっており、高齢者に重症化する傾向がみられます。

